

『日本遺産「龍田古道・亀の瀬」』のご案内

企画委員会

「龍田古道」は、奈良時代の平城京と難波宮を結ぶ行幸路で、多くの万葉人が和歌に詠んだ風光明媚な土地です。

また、龍田古道の心臓部ともいえる「亀の瀬」は、4万年前から地滑りが繰り返されてきた難所であり、古代より都の西の玄関口として交通・経済・治水を支えてきた重要な場所です。

今回は、JR 三郷駅を出発し、龍田古道を辿り、亀の瀬の地滑り対策事業を見学します。

記

- ・実施年月日 2024年5月3日（金）憲法記念日
- ・集合 JR 大和路線 三郷駅 改札口外 10時
- ・行程 三郷駅  ～ 龍田大社～ 峠八幡神社～ 亀の瀬着 12:30頃(昼食)  ～ 亀の瀬(各施設見学) ～ JR 河内堅上 15:00頃(解散)
- ・実施 前日17時の気象庁天気予報で、「奈良県北部」の「6:00～18:00」の降水確率50%以上で中止
- ・ガイド 「龍田古道・亀の瀬ガイドの会」の皆さん
- ・持ち物 弁当・飲み物・雨具・レジャーシートなど
(昼食場所は「地滑り歴史資料館」横の広場を予定。ベンチ等はありません)
- ・その他
 - ・行路は多少のアップダウンはありますが、舗装されている歩きやすい道です
 - ・龍田古道では、いくつかの万葉歌碑の説明を聞きます
 - ・亀の瀬では、新築された資料館、地滑り防止のための排水トンネル、偶然発見された鉄道トンネルの崩落跡などを見学します。見学は1.0～1.5時間を予定しています。
 - ・鉄道トンネル跡内ではプロジェクションマッピングを実施中です。
 - ・トイレは、出発後亀の瀬までありませんので、駅ですませてください



「龍田古道」とは

(龍田古道 うおーきんぐ map より)

古代、大和（奈良県）と河内（大阪府）の境界は生駒・金剛の山地で画されておりまして。そのため、大和と河内の間には古くから山越えの道が数か所設けられていました。その道のひとつに龍田古道があります。

現在、龍田山の地名は残っていませんが、奈良の都から見て、西の山々を総称して龍田山と呼んでいたそうです。その山を越えて奈良から西へ向かった道が龍田古道です。

龍田古道は壬申の乱の舞台になり、奈良時代には、平城京から難波宮への行幸路として利用されました。

- * 神奈備の 伊波瀬の杜の呼子鳥 いたくな鳴きそ わが恋まさる 鏡王女
- * 龍田山 見つつ越え来し桜花 散りか過ぎなむ わが帰るとに 大伴家持

亀の瀬とは

(2020年6月2日／読売新聞より)

- ・ 柏原市峠の地区の名前。この地区を流れる大和川の、川中にある大きな岩が亀のように見えることが地名の由来とされる。
- ・ 場所は生駒山地の南端で古来大阪と奈良を結ぶ交通の要衝。今も国道25号とJR大和路線が通っている
- ・ 記録に残る主な地滑りは1903年、31～32年、67年の3回だが、4万年以上前から何度も起きていたことが分かっている
- ・ 31～32年の地滑りでは約32ヘクタールに及ぶ山塊が川に向かってゆっくり移動。川床が隆起して流れを完全にせき止め、上流の奈良県側で広範囲にわたって浸水被害が出た。JRの鉄道も被災し、その後に線路を付け替えて、現在は迂回して走っている
- ・ 国の対策事業は1962年から始まった。
- ・ 地滑りで動く可能性がある土の塊1500万立方メートルのうち上部の90万立方メートルを除去。地下水を抜くために集水管4000本を地中に設置し、大和川へ放流する排水トンネルも7本掘削、さらに鉄筋コンクリート製の杭を約730本打ち込むなどの対策が行われている
- ・ 31～32年の地滑りで崩壊したと見られていた鉄道トンネルが、工事中の2008年に偶然見つかった。れんが積み天井には蒸気機関車の吐く煤が黒く残っていた
- ・ 現在地滑りはほぼ止まっているが、伸縮計や地下水位計などによる監視が今も続けられている
- ・ この対策事業は世界でも例のないものとして各国の専門家が視察に訪れている
- ・ 今後想定される最悪の事態は『地滑りで大和川がせき止められ、たまった大量の水が一気に下流の大阪平野にあふれ出る』という事態で、そうならないための対策が今も続いている

